

科目区分	専門分野	単位数・時間数	2単位・90 時間	開講時期	3年・ 前期
授業科目名	成人看護学実習（急性期）			授業形態	臨地実習
担当教員	武森 勢津子		実務経験	○看護師	
授業概要	急性期にある患者の特性を理解し、危機的状況に応じた看護を学ぶ。急性期にある対象に起きている変化や、反応に科学的根拠を持ち援助ができる。また、自己の看護を振り返り看護学生としての自覚と責任を持った行動ができる。				
学習目的	急性期（周術期）にある対象および家族を理解し、手術侵襲からの回復過程と回復段階に応じた看護を学ぶ。				
到達目標	2. 科学的根拠に基づいて対象の現状を分析・解釈することができる。 3. 急性期（周術期）にある対象に必要な看護が理解できる。 4. 手術室の環境がわかる。 5. 手術室で治療を				
	1. 急性期（周術期）にある対象の特徴が理解できる。 1) 急性期（周術期）にある対象の身体的特徴を理解する。 2) 急性期（周術期）にある対象の精神的特徴を理解する。 3) 急性期（周術期）にある対象の社会的特徴を理解する。 2. 科学的根拠に基づいて対象の現状を分析・解釈することができる。 1) 治療による身体的侵襲を理解する。 2) 治療による合併症を理解する。 3. 急性期（周術期）にある対象に必要な看護が理解できる。 1) 治療による合併症の予防と回復促進のための援助を行う。 2) 苦痛を緩和するための援助を行う。 3) 対象の日常生活の制限を理解した援助を行う。 4) 対象の反応・変化から実施した援助を見直す。 4. 手術室の環境がわかる。 1) 手術室の構造・設備の特殊性が説明を受ける。 2) 安全管理の実際が説明を受ける。 5. 手術室で治療を必要とする対象の看護がわかる。 1) 手術室で治療を必要とする対象の援助を看護師とともに行う。 2) チーム医療の必要性を理解する。 3) 対象および家族への精神的看護の重要性を考える。 実習期間：9日間 実習時間：8：00～16：30 実習展開については実習要項参照				
評価方法	成人看護学実習の評価基準に従い、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後までの学習状況から学生・教員（臨地実習指導者所見）で評価を行い総合評価がC以上で合格とする。				
教科書 参考書等	系統看護学講座 別巻 臨床看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 緩和ケア（医学書院）				
備考					